

## 食のこれから、そしておぼんざいの可能性

阿部 夏海

おぼんざいを考える前に、みなさんは「食」をどのように捉えていますか？私は、「測り知れない可能性をもつもの」だと考えています。具体的に言うと、食育を通しての道德教育の場や、食卓を囲むことや情報交換によるコミュニケーションの場など、ただ「生理的欲求を満たすもの」に留まらない機能、可能性を秘めているのではないかと、ということです。もちろん、「衣・食・住」が人間の生活の基本となっている以上、「食」が心の豊かさをもたらしてくれることは、言うまでもないでしょう。つまるところ、「食」は私たちの生活をより豊かにしてくれるもの、さらに視野を広げれば、世界平和を実現するためのカギにもなりえるものだと思うのです。

ところが、現在の日本の食を取り巻く状況は、日に日にその重要性を忘れ去っているような気がしてなりません。例えば、食への関心の薄れ。「お腹がいっぱいになればそれでいい」そう言って、食を楽しまない、軽視する人が増えています。もちろんそれに伴い食育も軽視され、食事のマナーがなっていない人がますます増えています。そういったマナーの乱れが、(ここで具体的な例について述べることは割愛しますが)普段の生活習慣や社会でのマナーの乱れ、思いやりの不足にもつながっているのではないのでしょうか。また一方では、グルメブームに代表されるような、食への関心が高まっている動きもあります。しかしながら、これはただ食に関する情報に振り回されているだけであるかのように感じられるのです。いわゆる、“食のファッション化”です。「あのタレントが、雑誌が、ネットが美味しいと言っていたからきっと美味しい」「これは〇〇ブランドだから、〇〇栽培で農薬を使っていないから美味しい(農薬を使っているものはだめだ)」果たして、そこに食の本質はあるのでしょうか？もちろん、これらを完全に否定するわけではありません。本当に美味しいものは美味しい。誰が食べても、美味しい！と認められるものはきっと存在すると思います。それに、情報は私たちに新しい世界を提示してくれる、重要なツールであると思います。ですが、「体にいい」だとか「美味しい」だとかいう情報ばかりが氾濫していて、大げさかもしませんが、“食のもたらす幸福感よりも、情報を味わっている”、そんな傾向が生まれているように感じられます。

そこで私の頭に浮かんできたのが、おぼんざいの存在です。私は、おぼんざいとは”日々の何気ない素朴なおかずと、食にまつわる文化や作法、精神が一体となったものが、京都という地で独自に育まれてきた体系”であると考えています。本報告書で様々な立場の方々が論じられているように、おぼんざいはただの食事ではなく、親から子へと引き継がれてきた、そしてこれからも引き継いでいくべき、「食」に関する考え方の根幹にあるべきものなのではないのでしょうか。また普段の生活からおぼんざいに触れることで、ものの大切さ



を知り、移り変わっていく情報に流されず、本質を見定めることのできる消費者に近づくことができると思います。そうなることで、生産に携わる人との付き合い方も変わり、日本の農林水産業のあり方、そして未来を考えるきっかけが生まれるでしょう。夢のような話ですが、おばんざいこそ、「食のこれから」を変えていくための、重要なツールではないでしょうか？

ここではおばんざいを取り上げていますが、日本各地にはそれぞれの文化があり、おばんざいと似た体系を持つものが存在すると思います。おばんざいの研究が進むことでそれらをも盛り上げることができれば、日本の食のあり方もいい方に変えることができるのではないのでしょうか。とは言えども、私はまだまだ日本の食やおばんざいのことを十分知っている訳ではありません。これまで大きなことばかりを述べてきましたが、それは違う、と非難されるかもしれませんし、まだまだ知識不足だと感じています。ですが、「食」はきっと社会をより豊かに、そして人々を幸せにしてくれるものだと信じてやみません。その力を引き出すためにも、この歴史ある京都の地で、伝統あるおばんざいのことをもっと学び、自分のものにし、発信していきたいと思っています。

#### おばんざいとは

今私たちの食生活は質、量ともにかつて無いほどに豊かになり世界中の食べ物が簡単に手に入るようになりました。しかし一方で食の生産や分配をめぐる多くの経済問題や社会問題を引き起こしています。又私たちの日常生活にも大きな変化をもたらし、食に関わる様々な心身の問題も生まれています。物質的に豊かな食生活は必ずしも幸せな食生活では無いということでしょう。

京都ではつつましいけれど巧みに食材を使い、季節を楽しみながら健康で幸せな生活が営まれてきました。その食生活の中心にあったのが「おばんざい」です。おばんざいは長い歴史の中で培われた京都の先人たちの知恵の集まりであり、京都人の価値観の表現でもあるのです。

「おばんざい」は単に出来上がった毎日の「おかず」だけを意味するものではありません。むしろ、「おばんざい」を形作る精神と「おばんざい」を構成する具体的な様々な知恵を基に、調理され食べられている食の様式を意味します。京都に生まれた一つの食様式、食文化が「おばんざい」だといえるわけです。

おばんざい伝承師 石黒美江記

